

## (1) 学校教育学類（共同教員養成課程）

富山大学教育学部共同教員養成課程・金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程では、富山・石川両県における教員養成を目的とする課程であるという設置趣旨を踏まえ、学校現場の課題に正面から取り組み、使命感を持って子どもたちの成長に尽くすことのできる教員を養成する。

## (2) 人間社会学域（地域創造学類及び学校教育学類を除く）

### ①人文学類

人文学類においては、広範な人間の行動・思考・創造と、その蓄積としての思想・歴史・文化・言語等を学問的に取り扱い、これら諸学問の専門知識を有し、総合的・学際的視野を持った専門的職業人の養成を目的としている。こうした本学類の設置趣旨にもとづき、「言語や文化に対する深い理解」や「国語を適切に表現し的確に理解する能力」を有し、「地球、国家、人間等に対する適切な理解」や「国際社会で必要とされる基本的資質能力」を備えた教員を養成する。

本学類で設置する教職課程のうち、中高国語教員免許に関しては、日本語及び日本文学に関する専門的な理解をベースに、自国の言語文化に対する関心を深め、国語を適切に表現し的確に理解する能力を有する教員の養成を目指している。また、中高英語及び高校中国語においては、これらの外国語能力の養成を第一の目標としているが、これとあわせて、それぞれの言語及び文化に対する理解を深める、さらに、外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ることも大きな目標としている。そのため、留学や海外語学研修等を積極的に支援している。さらに、中学社会・高校公民・高校地歴の免許に関しては、諸資料に基づいて日本及び世界の諸地域について、歴史的・文化的な側面から多面的・多角的に考察する能力を身につけた教員を養成することを目標としている。歴史学系の専門分野では、基本資料の読解演習に特に重点を置き、地理学・社会学等の諸分野では、地域に根差したフィールドワークを重視しており、これらをあわせ修得することにより、より広汎な能力を身につけた教員を養成することをめざしている。

学類全体としても、教員として求められる資質をふだんの授業等で適切に展開していく能力を開発していくために、専任教員全員が協力して指導にあたり、随時助言していく体制をとっている。学類のFD活動を通して、通常の授業でも、単に講義だけで終わることのないよう、グループ学習や成果発表など、体験型・実習型の授業を多く取り入れており、これらによって単に知識を伝達するだけに終らない「学び方を学ぶ」ことを通して教育現場で通用する実践的な指導力の養成を目指している。

# 人間社会学域

## ②法学類

法学類では、現代社会に対して幅広い関心を持ち、よりよい社会実現のために法的思考によって問題の解決策を導き出せるとともに、自発的かつ意欲的に課題発見に挑む能力の育成を目的とした専門教育を実施している。このような法学類のカリキュラムを通じて得た規範や政治に関する知識、物事を論理的かつ歴史的に分析する能力を学校教育の場で発揮するために、高一種免（公民）の教職課程を設置している。高一種免（公民）では、現代社会についての主体的な考察と理解を深めるとともに、民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民としての資質を養うために必要な教育を担当できる教員の養成を目指す。

## ③経済学類

経済学類は、経済理論・経済政策、経営・情報科学、世界各地の経済と社会の比較考察という3つのコースを有し、変動を続ける現代社会が直面する諸問題に的確かつ迅速に対処することができる専門的知識を有した人材の育成を目的としている。本学類で培われる能力を教育の現場で発揮するために、中一種免（社会）、高一種免（公民）の教職課程を設置する。

本学類で学んだ学生が教職に就くことで、現実の経済や社会の制度・政策・歴史に関する知識をベースにした社会科・公民科の授業が期待され、集積された知を社会に還元するという大学に対する社会的要請にも応えうる。また、本学類の教育システムの特色である2年間の少人数によるゼミナールでは、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を備えた人材が育成される。すなわち知識教授型授業並びに参加型授業のどちらをも実施できる教員の養成が期待される。

## ④国際学類

国際学類は、国際社会の諸問題や異文化への関心、日本のアイデンティティへの探求心とともに、国際社会への洞察力を持ち、異文化との共生を実現できる国際人の養成をその目的としている。このような理念を踏まえ本学類では、中高英語免許については実践性の高い英語力を備えると共に、本学類の特色の一つである日本・日本語教育コースとの連携のもと、日本を発信できる外国語（英語）教員の養成を、中高国語免許については、同じく日本・日本語教育コースにおける、外国人に対する日本語教授のスキルの修得を踏まえつつ、広く国際教養を備えた国語教員の育成を目指している。また中学社会・高校公民・高校地歴免許についても、単なる書物上の知識だけではなく、外国人留学生との日常的接触や長期の留学体験を踏まえた、国際社会の現在を教育現場に伝えられる教員の育成をその目標に据えている。国際社会に関する知識、英語の運用能力や日本語の教育能力を備えた本学類学生が、学校教員として我が国の中等教育に参画することは、思想・制度・技術の各方面における教育の国際化に貢献するのみならず、生徒との人格的接触を通して、彼らに国際感覚を芽生えさせる契機ともなる。加えてこのような人材は、次第に増加しつつある海外出身生徒の教育の担当者として、海外における日本人子女の教育拠点における勤務者として、重要な責務をになうことが期待される。